

# 施策7割「順調に進行」

## 第6次八戸市総合計画 市民委が評価提出

### 市民と行政認識にずれも



小林眞市長(左)に  
評価内容を伝える市  
民委員会のメンバー  
＝29日、八戸市庁

第6次八戸市総合計画(2016～20年度)の進捗状況を年度ごとにチェックする市総合計画等推進市民委員会(委員長・丹羽浩正八戸学院大学長補佐)は29日、同計画の進行管理に関する評価をまとめ、小林眞市長に提出した。子育て支援や企業活性化など32施策のうち約7割の24施策について「順調に進んでいる」と評価。一方、市民の感覚と行政の認識に乖離が見られる施策もあった。

委員会は▽市の自己評価▽市民アンケート▽関連データ等の三つの指標を基に、今回初めて各施策をA～Dの4段階で評価。教育

や企業活性化、地域防災、健康・福祉の充実など24施策をB(順調に進んでいる)、中心街活性化や女性活躍など8施策をC(改善の余地がある)と採点。A(特に順調)、D(大幅な改善が必要)はなかった。結婚、出産への支援や雇用支援など市の自己評価が高いにもかかわらず市民アンケート評価が低い項目は、行政サービスと市民ニーズとの間にずれが生じていることをうかがわせた。

このほか、近年の人口減少社会に伴い「人口構造の変化に適切に対応していくことが重要」と指摘した。この日、委員会のメンバーから提言を受けた小林市長は「頂いた意見を検証し、次の展開につなげていきたい」と今後の市政運営に役立てる考えを示した。

(田中秀知)